

KUMAMOTO YMCA NEWS

THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION

YMCA November 2014 vol.510

11



元気いっぱい！ぶどうの木幼稚園運動会

- C O N T E N T S**
- ① 東ティモール大使が熊本YMCAを訪問
 - ② 若竹寮フェスティバル/ユースリーダーの集い
 - ③ YMCAフィランソロピー協会総会/カンボジアYMCA職員研修
Youth Act Vol.8 東ティモールユースキャンプ
参加者 江麟太郎さん
REPORT こどもえいごスクールキャンプ/日韓医師蹴球親善交流
タラント No.8 「子どもとスポーツ」
Topics ながみねファミリーYMCA/むさしYMCA/阿蘇YMCA
 - ④ 国際協力青少年育成成年末募金のお願い

駐日東ティモール大使が 熊本YMCAを訪問

交流から広がる支援の輪

熊本YMCAでは、アジア太平洋YMCA同盟(APAY)などと協力しながら、東ティモールYMCAの活動を通して、現地の若者や子どもたちの支援を行っています。

東ティモールは2002年に独立したアジアで一番若い国です。熊本YMCAでは、ながみねファミリーYMCAが中心となり、2012年より職員を4度にわたって派遣。サッカープログラムを通じた活動等に取り組んできました。



熊本県知事の蒲島郁夫さんを表敬訪問



歓迎夕食会では尾ヶ石保育園園児が虎舞を披露



ながみねファミリーYMCA体育英語幼稚園と交流

この活動を受け、9月16日(火)〜18日(木)、駐日東ティモール特命全権大使であるイジリオ・コエーリヨさんの熊本訪問が実現しました。阿蘇YMCAで開催された歓迎夕食会には阿蘇市長の佐藤義興さんをはじめ、APAY総主事の山田公平さん、YMCA運営委員、ワイズメンズクラブなどの関係者が参加。また、熊本県知事の蒲島郁夫さん、熊本市市長の幸山政史さんを表敬訪問したほか、熊本市内の小学校やYMCAの体育英語幼稚園では子どもたちとの交流の時間が持たれました。

今回は、APAY総主事の山田公平さん、東ティモール全権特命大使イジリオ・コエーリヨさん、先日行われた「YMCA東ティモールユースキャンプ」に参加したながみねファミリーYMCA職員の徳永祥太さんに、メッセージをいただきました。

わたしと聖句

マルコによる福音書8章34節

わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失うものは、それを救うのである。

キリスト・イエスに従う幸い

私は1960年の秋、高校3年生の時クリスチャンになりました。熊本

市内の県立の高校でしたが校内の掲示板に貼られた一枚のポスターが教会に行きつけかけでした。聖書を読みはじめたのですが、面白くもなく、また何が書いてあるのかさっぱりわかりませんでした。しかし、聖書を開いて読むたびに冒頭の聖句が気になり心に残りました。今にして思えば、どのように生きていきたいのか、どのような進路を歩めばいいのか?と迷っていた私にピッタリの聖句だったと思います。

それから導かれて神学校に行き28歳で牧師になりました。イエス・キリストにより「神は愛である」ということを知る幸いを多くの人に知らせたいと願っています。

現在、私は72歳。「御言葉は、わたしの道の光 御言葉によって導かれた歩みを感じています。」

日本バプテスマ連盟熊本愛泉教会
濱田 修二

自立支援を目指す アジアのYMCAネットワーク



山田公平さん
アジア太平洋YMCA同盟総
主事

アジア太平洋YMCA同盟(APAY)は、日本を含むアジア・太平洋地域の24の国と地域のYMCAからなります。東ティモールでは2004年から日本人職員を3年間派遣するなど、APAYが日本、韓国のYMCAとともに現地YMCAの基礎をつくりました。その後は、地元スタッフが総主事となりました。韓国は主にコーヒー生産地の支援、日本はサッカーや国際キャンプなどへの協力をしてきました。

東ティモールは独立後、国連をはじめ、多くのNGOが支援をしてきました。そのような中では「外国には何かをしてもらえる」という依存心が生まれがちですが、現地YMCAは独自の運動として着実に歩み出しています。地元の総主事とプログラム責任者が育てられ、中でも、サッカープログラムは、大人気です。200人を超える子どもたちが毎日練習しており、東ティモールの全国代表チームにも選ばれるようになりました。地域の人々の間に、自信が生まれつつあります。

東ティモールはコーヒーの産地として知られています。YMCAでは、豆をそのまま業者に売るだけで

なく、自分たちでよい豆を選び分け、加工し、輸出できる共同体をつくるようにしました。経済状態も改善され、多くの変化が起きつつあります。

そのような中、イジリオさんと熊本で会い、YMCAの働きや願いを理解していただけたことは大変うれしく思います。今後、地元の行政とのつながりも深まることを期待しています。熊本YMCAの活動を通して、東ティモールYMCAとのつながりがさらに推進され、双方にとって温かい心のつながりが持てるようになることを心から祈っています。

熊本訪問で感じた熱意



イジリオ・コエーリヨさん
駐日東ティモール特命全権大
使

東ティモールは2002年5月20日に独立を取り戻した21世紀最初の独立国です。東南アジアに位置する14,900平方キロメートルの島国で人口は120万人。99%がカトリック教徒です。人口の53.1%は19歳以下という若い国民が多い国です。

石油と天然ガスの資源を有しており、国家予算の90%はこの2つの天然資源により成り立っています。が、農業、漁業、観光も緩やかに成長しつつあります。極度の貧困にあえぐ現状から脱し、国民の健康と教育水準を高め、2030年までに所得をミドルレベ

ルにまで引き上げるといふ国家開発計画は、政府による戦略的開発計画のもと、着実に迅速に進められています。

わが国の発展の一部は、海外のNGOにも支えられています。熊本YMCAは東ティモールのデイリYMCAとともに、スポーツと市民教育を通して、子どもや若者の成長に寄与しています。今回は、これまでの熊本YMCAのわが国への協力に感謝するとともに、熊本県民とわが国の友情が、将来的には日本国民とわが国との関係構築にまで発展することを願って来熊しました。

熊本訪問はたいへん有意義なもので、熊本YMCAのデイリYMCAへの支援継続とわが国の発展および両国の関係構築への熱い思いを知ることができました。

熊本YMCAに続く、熊本県庁、熊本市役所、阿蘇市の訪問を経て、私は熊本YMCAや県・市とわが国の関係が、両国の人と人をつなぐ特別で友情にあふれるものになることを期待しています。また、今後東ティモールの若者が熊本へ留学したり短期研修を行い、それをわが国に持ち帰って、国家の発展に貢献してくれることを願っています。

共に考える 東ティモールの未来



徳永祥太さん
ながみねファミ
リィYMCA職員

9月8日(月)～14日(日)に日本YMCA同盟主催・熊本YMCA主管で実施された「第7回YMCA東ティモールユースキャンプ」に、昨年に引き続き

参加しました。2012年の視察を含め、3回目の東ティモール訪問。今回は、ながみねファミリィYMCAでサッカー・水泳・キャンプのユースリーダーとして活躍している江藤太郎さん(3面ユースアクトに登場)も参加しました。ユースキャンプでは、未来の人材育成のために、東ティモール・韓国・日本からユースが集い、「持続可能な開発と環境」と題して、今後の改善点について話し合いました。また、現地YMCAのサッカープログラムに通うメンバーへのサッカー指導も行いました。

東ティモールのYMCAは新しく、ユースリーダー・スタッフの人材育成が急務です。熊本YMCAは、サッカー指導法やサッカーを通じたYMCAウエルネスの思想を伝えるなど、継続した支援を行っています。また、熊本の多くの人の協力により、サッカーの備品等を提供することもできました。

私が東ティモールの訪問して感じるのは、実際に現地へ行き、歴史や文化などを理解し、現地の人々と共に東ティモールの未来について考えていくこと、そして、日本に帰って自分ができるところを行動していくことの大切さです。江さんと共に、自分たちの経験をたくさんの人に伝えることで、東ティ



東ティモールYMCAでのサッカー指導

モールの支援の輪がもっと広がり、継続した支援ができることを願っています。

北部タイ里親運動 20周年記念

若竹寮フェスティバル

1994年に始まった北部タイの山岳少数民族の子どもたちへの支援が、今年20周年を迎えました。10月5日(日)には中央YMCAで「若竹寮フェスティバル」を開催。里親運動、ワークキャンプ、スタディツアーなど、様々な形でタイにつながりのある参加者が活動の歴史を振り返りました。

報告会では、昨年のタイユースキャンプ参加者が、密度の濃い10日間を経験したと発表しました。YMCAからは、若竹寮の状況、子どもたちの生活を紹介。経済的に大きな格差の中で暮らす少数民族の村はキリスト教が精神的な支えにもなっていると報告がありました。グループディスカッションでは、若竹寮の今後の支援について意見を交換。「サポートを継続させることが大事」「里親やキャンプ参加者が様々な場所で活動報告をしたほうがよい」「学校や教会へ協力の呼びかけをしてはどうか」「バザーなど支援の形を幅広く設けたい」「若竹寮を卒業した子どもたちのその後を追跡してほしい」と、多彩な意見をいただきました。



その後、懇親会が行われ、タイ料理に舌鼓を打ちながら、タイへのそれぞれの思いを共有する時間を過ごしました。

ユースリーダーが活動体験を共有

10月5日(日)、中央YMCAにおいて、今年で4回目となるユースリーダーの集いが行われました。これは、ユースリーダーがこの夏に参加した国際交流やボランティアなど10のプログラムにおける活動報告を行うことで、それぞれの体験を共有することを目的としたもの。意見を交換し合い、交流を持つ中で、活動を共にする仲間がいることを実感し、運動の輪が広がっていくことが期待されます。活動の場が国内外であったり、関わる対象も他国のユースリーダー、視覚障がいを持った子どもたち、海外の貧困層の子どもたちなど様々ではありますが、そこには共通する感動や思いがあったようです。

プログラムに参加したユースリーダーたちからは、次のような感想が聞かれました。
「今も世界には平和ではない現状があるという現実から目を背けず、考え続ける必要があることを実感。平和の実現のためには、外国の友人を増やすことが大切だと思いました」(国際青少年平和セミナー参加者)
「他の地区で活動するユースリー



ダーと2泊3日を共にして、自分の夢を語ったり、キャンプファイヤーと一緒に囲んだり、YMCAの活動の中で何を感じているかなどを語り合ったりして、とても貴重な体験になりました」(西日本地区YMCAリーダー研修会参加者)

「視覚障がいを持つ子どもたちに、プログラムとプログラムの間も含めて24時間寄り添うことで、多くの学びがありました。また、同じ子どもにも2年、3年と続けて接する機会もあり、その成長を実感することができました」(ポニーキャンプ参加者)

「子どもたちと接する中で、関わり方や距離感について考えました。この経験を今後に生かしていきたいと思えます」(コスモスキャンプ参加者)

「英語を話す力の大切さを痛感しました」(インドネシア メダンYMCA訪問参加者)

「いまだに根強く残るカースト制度や貧困、孤児の問題など、多くの社会問題を抱えながらも、前を向いているインドの人たちの人間力の強さを感じました」(学生YMCAインドスタディキャンプ参加者)

活動報告プログラム

- 第36回国際青少年平和セミナー
- 西日本地区YMCAリーダー研修会
- 第41回ポニーキャンプ
- 第32回日韓視覚障がい青少年交流プログラム
- 地球市民育成プロジェクト
- コスモスキャンプ
- インドネシア メダンYMCA訪問
- 学生YMCAインドスタディキャンプ
- 東ティモールユースキャンプ
- カンボジアYMCA交流

子どもが、未来を創る

2014.11 ◀ 2015.1

国際協力青少年育成年末募金

◀東ティモールの子もたちと共に



フィリピン台風被災地支援
ワークキャンプ▼



ご協力の
お願い

熊本YMCAでは、毎年、年末から翌年1月にかけて標記の募金活動を行っております。昨年度も皆様から尊いご協力をいただき、目標を上回ることができました。心より感謝申し上げます。皆様からお寄せいただきました募金は、経済的に援助を必要とする子どもたちへの支援、世界中のYMCAネットワークにより国際協力活動や青少年育成に用いられる他、草の根活動を行っているNGO団体支援などに用いられます。

私たちは平和の祈りを行うだけでなく、世界の平和への関心を更に深め、私たちにできる平和に繋がる様々な活動を行っていきたくと考えています。紛争や貧困、また自然災害などによって世界中の多くの仲間が苦しんでいます。現地での直接的な支援活動や子どもたちの心のケアを継続して実施する必要があります。

東日本大震災、九州北部豪雨、広島豪雨災害など災害による傷は深く、被災者への支援は継続して行って参ります。

皆様にはこの様な募金の趣旨をご理解いただき、本年度もご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2014年11月 熊本YMCA会 長 菅 正康
熊本YMCA募金委員長 田中俊夫
熊本YMCA総 主 事 岡 成也

街頭募金の様子



◀タイ山岳少数民族の子ども



国際協力青少年育成年末募金ってなに？

地球上のすべての人々が、国や民族、宗教の違いなどを認め合い、平和にいきいきと暮らすことができる社会をつくるための募金です。

どうして募金が必要なの？

困ったり、悩んでいる人がいたらどうしますか。そんな相手のことを、「自分のこと」として考えてみませんか。世界や地球に生きる一人として、考え、行動すること、そして、みんなのいのちを大切にすること、募金はその気持ちを伝える一つの方法です。世界中に思いやりの心をわけてあげてください。

感謝のメッセージが届いています

サマースクール・ウインタースクール参加者保護者より
「YMCAに安心して預けられています」

参加費減免制度(経済的な事由でYMCAのプログラムに参加できない子どもたちの参加費を一部免除する制度)を知るまでは、ひとり親家庭ということもあり、子どもに習い事をさせることはあきらめていました。

私は仕事をしているので、夏休みや冬休みになると子どもを預けるところがなく、いつも大変でした。たまたま保健センターに行ったときに、YMCAでお預かりしてくれるらしいと知り、YMCAに話を聞きに行きました。サマース

クールやウインタースクールというもので子どもを一日預かってくれるということ、経済的な負担を軽減してくれるという話を聞きました。おかげで夏休み、冬休みなども安心して仕事に行けるようになりました。

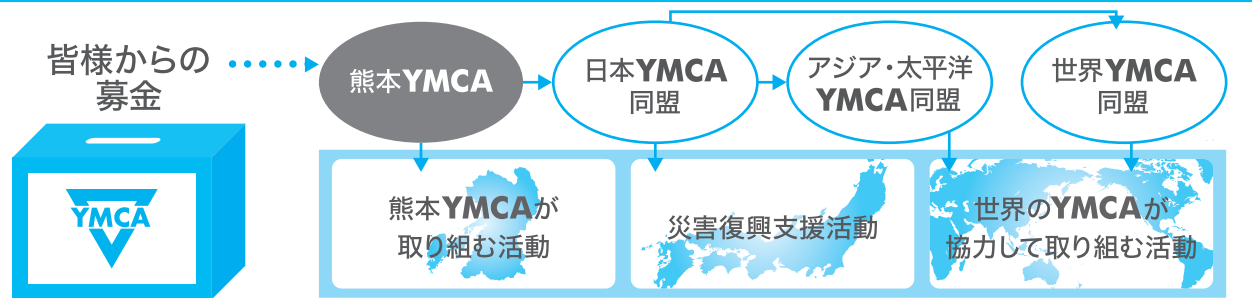
預かってもらうだけでなく、帰宅した子どもが「こんなことあったよ」「こんなリーダーいるよ」など今まで以上に楽しく話す様子を見て、本当によかったと思います。

～裏面でもメッセージを紹介しています～



募金の流れ

お寄せいただく募金は、国際協力・地域奉仕活動や青少年の育成、災害復興など様々な目的のために用いられます。



熊本YMCA 2014年度 国際協力青少年育成年末募金

募金目標

1,500万円

拠出予定

- ★経済的な理由でプログラムに参加できない子どもたちのために…………… 500万円
- ★経済的な理由で進学できない青少年の学びの場の提供のために…………… 380万円
- ★地球市民育成のために…………… 130万円
- ★障がい者の自立支援のために…………… 100万円
- ★シニア世代の健康年齢延長のために…………… 40万円
- ★災害復興支援のために…………… 50万円
- ★国際協力活動のために…………… 230万円
- ★草の根活動支援のために…………… 20万円
- ★事務費…………… 50万円

～世界中で、共に分かち合う、平和な世界を目指して～



経済的な理由でYMCAプログラムに参加できない子どもたちのために

YMCAでは、スポーツスクール、野外活動、英会話などを通して子どもたちの心と身体を育むプログラムを行っています。

経済的な事情などでYMCAのプログラムに参加できない子どもたちの参加費負担を軽くすることで、夢や未来に向かって頑張る子どもたちを応援しています。

経済的な理由で進学できない青少年の学びの場の提供のために

経済的な理由で進学が難しい学生や日本語を学ぶ留学生に対して、進級や入学のお手伝いをします。

YMCA学院児童福祉教育科卒業生より

家庭の経済的な事情のため、保育者になるための学校に入学するのは、国の奨学金だけでは難しいとあきらめていました。しかし、YMCA独自の奨学金があることを知り、アルバイトとあわせて、夢が叶うのではと入学を決断しました。

YMCA学院では、知識や技術を学ぶだけでなく、人としての在り方を学ぶことができたと思います。保育者として働いている今、子どもたちとの関わりはもちろん、先輩や保護者の皆さんと関わる際にも、YMCA学院での様々な学びや経験が活かされていると実感します。多くの方々の募金に支えられたことで、私はYMCA学院に通うことができました。私の夢自体を支えていただいたのです。YMCA学院で学んだことを活かしながら、子どもたちと一緒に成長していきたいと思っています。

地球市民育成のために

YMCAは、次代を担うリーダーの育成のためにYMCAが行う国際プログラムや国内外で行われるYMCA研修会、世界、アジアYMCA大会などにユースを派遣し、様々な経験を提供しています。



西日本地区YMCAリーダー研修会

障がい者の自立支援のために

熊本YMCAでは、2012年より就労継続支援A型事業所「ウエルビー」の運営をスタートしました。さらに、作業訓練や、職場実習、就職後の職場定着支援などを行う「就労支援事業所」を2014年に立ち上げました。



ウエルビーでの作業の様子

シニア世代の健康年齢延長のために

YMCAのウェルネスとは、各人が、与えられた状況の中で、自らの潜在的な可能性を最大限に求める生き方です。適度な運動習慣を身につけ日常に必要な体力を維持するシニア世代の健康年齢延長への動きを医療機関と連携して行っています。

災害復興支援のために

YMCAでは被災された方々の救援・復興を目的に、緊急支援活動及び被災地のための募金活動を全国で展開します。災害の際に弱者となる子どもや高齢者、障がい者、在住外国人などの方々のためにできることに、力を合わせています。



9月28日(日)に実施した広島市豪雨災害支援街頭募金

国際協力活動のために

日韓視覚障がい者青少年交流の支援、タイの山岳少数民族の子どもたちが街の学校に通えるように里親と協力して運営している「若竹寮」の支援、長引く紛争と占領で負傷した青年のための職業訓練所支援、青年たちのグループ活動、子どものためのサッカー教室、フェアトレード事業の支援等、それぞれの抱える課題に対して活動している東ティモール、ミャンマー、インドネシア、カンボジア、パレスチナ等のYMCAを支えます。



日韓視覚障がい青少年交流

北部タイ山岳少数民族の子どもたちのために運営している若竹寮の卒業生より

私は去年、大学のビジネス経営学科を卒業しました。家族も私を誇りに感じてくれています。

私が若竹寮で生活した間、寮長のヨハン先生と同じように私を支援してくださいました。里親をはじめ日本の皆様、ありがとうございます。私が小学校2年生の時に父が他界し、貧しい生活を強いられました。支援がなかったら、我が家の経済力では大学を卒業することはできなかったと思います。これから一生懸命働いて、社会の役に立つことを約束します。

募金方法 【受付期間:2014年11月1日～2015年1月31日】

直接お近くのYMCAへ募金をお持ちください。また、郵便振替や銀行振込、書留でも受け付けています。

郵便振替

口座番号 01950-9-45588
加入者名 熊本YMCA本部事務局

銀行振込

肥後銀行 新町支店(普)0310914
熊本YMCA賛助募金 理事長 菅 正康

※ご住所、氏名、ご入金額、お振込日をYMCAまでご連絡ください。
※YMCA窓口または振込で募金をいただいた方のお名前は、YMCA館内に掲示とYMCA NEWS 3月号に掲載させていただきます。掲示・掲載をご希望されない方は、お知らせください。

年末街頭募金活動:12月7日(日)県内各地にて

■募金(寄附金)については、税制上の優遇が受けられます

熊本YMCAへの募金や寄附は、所得税の控除を受けることができます。確定申告の際には、熊本YMCAの各法人の発行する寄附金領収書の添付が必要です。

①個人の場合(A or Bで選択)

A. 税額控除 ～所得税額から直接差し引かれます～

$$\begin{array}{|l|} \hline \text{寄附総額}-2千円 \\ \hline \text{上限は年間所得の40\%} \\ \hline \end{array} \times 40\% = \begin{array}{|l|} \hline \text{控除額} \\ \hline \text{上限は所得税額の25\%} \\ \hline \end{array}$$

B. 所得控除 ～課税前の所得から差し引かれます～

$$\begin{array}{|l|} \hline \text{寄附総額}-2千円 \\ \hline \text{上限は年間所得の40\%} \\ \hline \end{array} \times \begin{array}{|l|} \hline \text{所得税率} \\ \hline \text{課税所得額によって異なる} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|l|} \hline \text{控除額} \\ \hline \end{array}$$

※2,000円以下の寄附は対象外です。 ※他の控除等により変動します。

※所得税率は課税所得額によって異なります。

②法人の場合 一般の寄附金とは別枠で損金算入ができます。これにより、法人税額が軽減されます。

国際協力青少年育成年末募金に関する情報は、熊本YMCAのホームページでもご覧いただけます。

<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/>

熊本YMCA 募金

検索



YMCAファイランソロピー協会年次総会

10月17日(金)、熊本交通センターホテルで、YMCAファイランソロピー協会2015年度年次総会が開催されました。

第一部では、協会事務局長 熊本YMCA総主事の岡成也さんが「世界経済の低迷や少子高齢化、自然災害など様々な問題が起こっています。ファイランソロピーの活動は、YMCAを通して社会的責任に寄与する機会。来年は20周年を迎え、新しい価値を見出せる企業人のボランティアの裾野を広げていきましょう」と挨拶。(株)近代経営研究所の松村智之さんは、昨年度の事業状況を報告し、「私たちの周囲には社会的課題が山積みです。企業や地域のつながりを大切にしながら、問題解決に役立ちたいと思います」と感想を述べました。続けて、決算、会計監査、来年度の事業方針計画の提案が行われ、参加企業の承認を得ました。



第二部では、日本フェアトレード委員会理事長で(株)ナチュラルコーヒー代表の清田和之さんにより、「実践フェアトレード」をテーマに講演が行われました。「セイロン紅茶で知られるスリランカは、かつてはコーヒーの産地だったことを知り、消費国により、作物も価格も決められてきたと実感。もう一度コーヒー文化を復活させ、適正な取り引きをすることにより、スリランカの人たちが頑張る仕組みをつくりたい」と語りました。

カンボジアYMCA職員が熊本で研修

9月22日(月)～10月10日(金)、カンボジアYMCA職員のエク・パニヤさんを熊本に招き、むさしYMCAを中心に研修を行いました。カンボジアYMCAが取り組むオルタナティブツーリズムや国際交流事業の成長、海外からのゲストの受け入れにあたっての職員のスキルやマインドの向上を願って、日本語学校での研修、日本文化体験や企業での職業体験、YMCA学院生や合志市の小中学校児童・生徒との交流を行いました。

パニヤさんからは「熊本YMCAの多くの活動に接し、YMCAの役割と責任が素晴らしい世界を構築していることを実感しました。また、スタッフや会員、子どもたちとの交流を体験でき、非常に実りの多い研修でした。ホームステイでは受入家族と良好な関係を築くことができ、とても感謝しています。カンボ



受付業務を体験(左がパニヤさん)



地域の中学生たちとの交流

むさしYMCA 垣雄二

YOUTH ACT

Vol.08 YMCAで活躍しているユース紹介

●東ティモールユースキャンプに参加



江麟太郎さん(こぐまリーダー) 熊本学園大学商学部2年/ながみねファミリーYMCAユースリーダー

サッカーボールを通じて意思疎通

小学生の頃にYMCAのサッカーと水泳クラスに通っていたこともあり、YMCAに恩返しをしたいという思いでユースリーダーの活動を始めました。サッカー、水泳、キャンプなどのリーダー活動をしていく中でボランティアや国際協力の分野にも興味を持ちはじめたころ、昨年東ティモールに行かれた職員の話聞いて、現地の人の役に立ちたいという気持ちになり、今回の東ティモールユースキャンプに参加しました。

海外は初めてで、言葉が通じるか不安でしたが、片言の英語やジェスチャーで少しは伝わったと思います。子どもたちへのサッカー指導では、パス交換をする中で自然に意思疎通ができ、改めてスポーツの魅力を実感しました。また、少しでも技術を取り入れようと、みんな目を輝かせて聞いて、一生懸命ボールを追いかける姿にとっても嬉しく思いました。今回、現地の人々のために役立ったことは少なかつたと思いますが、これからまず自分でできることはこの貴重な経験をたくさんの人に伝えていくことだと思えます。実際に現地に行き、現状を目の当たりにし、知ることと感ずることは違うということを伝えたいです。帰国後も現地の友だちとは連絡を取り合っているの、次回もぜひ参加し、みんなと再会したいと思っています。

REPORT

子どもたちが英語でキャンプ

■日程/9月13日(土)～14日(日) ■場所/阿蘇YMCA

こどもえいごスクール秋期キャンプを行い、年長から小学6年生までの40名が参加しました。キャンプの目標は「思いやりの心を育もう」「新しいお友だちをつくらう」「たくさん英語で話そう」。はじめはドキドキだったけど親友のように仲良くなった子どもたち、年下の子の面倒を見る高学年のお兄ちゃん、お姉ちゃんなど、思いやりと元気な英語に包まれた2日間でした。 キャンプ閉村式では「来年もまた来たい!」という感想。 また待ってますよ! みなみYMCA 中村恭浩



日韓の医師がサッカーで交流

■日程/9月27日(土)～28日(日) ■場所/韓国慶山市運動場

第25回日韓医師蹴球親善試合が開催されました。この大会は、36年前、熊本と韓国大邱のYMCA少年サッカー交流にチームドクターと参加した医師たちが計画したのが始まり。今回も、両国の医師団と大邱YMCAの奉仕により実施されました。結果は、韓国チームの優勝。様々な年代の選手のフェアプレーがとても感動的でした。このような活動が、韓国と日本の友情と相互理解、民間外交の橋渡し役として、世界平和に貢献していることを強く感じました。 職員 山田真二



職員 山田真二

タラント No.8

総主事 岡 成也

子どもとスポーツ

私は、天草の自然の中で、虫や魚を捕ったり、木や竹を使って訳のわからないものを作ったりして、上級生や下級生と混在した中で、「遊び」を行っていました。また、実家が真珠の養殖をしていましたので、必然的に手伝っていました。そのような中で、様々な体の部位を自然の中で鍛えていたのかもしれません。

現在、全国のYMCAでは、サッカーや体操、スイミング、野外活動等を通して、5つのゴールを設けています。この5つのゴールとは、FUN(楽しみ)、SKILL(技術取得・向上)、FITNESS(健康な体づくり)、FAIRPLAY(公明正大な態度)、VALUE(自分の価値を創り出す)です。子どものスポーツを生涯スポーツとして捉え、楽しいスポーツを通して健やかな心と身体づくりに親しめる環境を整えることにより、地域スポーツの活性化とコミュニティの再生を目指して活動しています。

文部科学省が実施した2013年度の体力・運動能力調査の結果が先日発表されました。栄養状態が改善し、スポーツに取り組む子どもが増え、体格や運動能力は全体的には向上したものの、外遊びの機会が減って低下傾向にあるものもあることが分析されています。また、競技スポーツをする子どもと肥満児傾向にある子どもたちの格差が懸念されます。

東京五輪開催から50年の今年、2020年の2度目の東京五輪開催決定しました。スポーツを行う環境や仕組みが変わり学校体育(部活動)からスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブへ、社会のニーズと共に変化しています。YMCA子どもスポーツ、子どもの人生と命を育む活動を共にお支えください。

熊本YMCA生涯学習セミナー

「現代の子どもの特徴と望ましい関わり」

学校や病院でのカウンセリング、またテレビや新聞などで活躍の岡崎光洋さんをお迎えして、現代の子どもたちとの向き合い方について学ぶセミナーを開催します。

日時 2014年12月6日(土)14:00~16:00(13:30開場)
会場 くまもと県民交流館パレア大会議室
定員 300名 参加費 無料

お問合せ/熊本YMCA学院
TEL 096-353-6393 FAX 096-324-7877

市民クリスマス2014

陣内大蔵チャリティコンサート

シンガーソングライターの陣内大蔵さんをお招きしてチャリティコンサートを開催します。コンサートの収益金は、日本YMCA同盟を通じて、東日本大震災復興支援活動支援並びに広島市8.20豪雨災害支援のため役立てられます。

日時 2014年12月16日(火)18:30開場 19:00開演
会場 くまもと森都心プラザホール
チケット 大人1,500円/学生1,000円(全席自由)
チケット取扱 熊本YMCA各施設・熊日プレイガイド・交通センタープレイガイド

お問合せ/市民クリスマス実行委員会事務局
熊本YMCA TEL 096-353-6397 FAX 096-324-7877

TOPICS 地域YMCAにまつわる人・モノ・場所などを順番にご紹介します。

ユースリーダーのチャレンジ ながみね



11月9日(日)に行なわれる「熊本マスターズ水泳競技大会」に、ながみねファミリーYMCAの3名のユースリーダーが出場します。普段、スイミングや発達障がい児支援等に携わっている、兼瀬稔宜さん(ウルフリーダー)、伊高沙耶さん(よつばリーダー)、元田怜佳さん(イルカリーダー)です。

限られた時間の中で泳ぎ込みを行い、それぞれの目標に向けてチャレンジしています。

YMCAは、仲間が共に励まし合い、喜びを共有できる場所です。応援をお願いします!

ながみねファミリー YMCA 上村文美

愛と希望の丘 むさし



むさしYMCAは来年3月で開設20年を迎えます。最初は「熊本YMCAむさし台センター」としてスタートしましたが、時代とともに建物のたたずまいや名称も変わってきました。写真はオープン当時に多くの方からの募金で贈られた、葉祥明さんの絵画です。小高い丘に建てられた小さな教会に羊や人々、動物たちが集まっています。澄んだブルーと白色、グリーンがとてもきれいです。この絵のように、むさしYMCAも人々の心休まる暖かい素敵な場所になれるようにと意味が込められています。 むさしYMCA 埜雄二

実りの秋 ブルーベリー 阿蘇



阿蘇YMCAでは、『未来の子どもたちに果樹園を!』をテーマに4月にブルーベリーの植樹を行いました。その際に、植樹と周辺の整備を行ってくれた、YMCA野外活動クラブ、インディアンズの子どもたちがブルーベリーを摘みに来てくれました。大きく実ったブルーベリーに、大興奮。あまずっぱい香りに包まれながら、おいしそうに食べてくれました。思わず、ポケットの中に入れ、持ち帰ろうとする子どもたちも! 果樹園は、たくさんのボランティアに見守られながら、どんどん成長してくれています。 阿蘇YMCA 山田真二

Kumamoto YMCA Network

- 中央YMCA 096-353-6391
YMCA学院 096-353-6393
YMCA学院高等学校 096-353-6391
本部事務局・ICR 096-353-6397
みなみYMCA 096-378-9370
上通YMCA 096-352-2344
東部YMCA 096-382-6661
ながみねファミリーYMCA 096-385-0676
むさしYMCA 096-248-6334
水前寺幼稚園 096-362-4141
阿蘇YMCA 0967-35-0124
尾ヶ石保育園 0967-32-0213
永草保育園 0967-32-0810
赤水保育園 0967-35-0024
黒川保育園 0967-34-0402
就労支援事業所ウエルビー 096-312-1333
リフレスおおむた 0944-58-7777
御船町スポーツセンター 096-282-4111



キャラクター・ディベロップメント推進中

3面でもご紹介したカンボジアYMCAの職員エク・パニヤさん。こどもえいごスクールのレッスンにも参加し、質疑応答をしたり、合掌して挨拶をする文化を紹介したりしました。
レッスン後「ソームオークン(ありがとう)」とパニヤさんのところへ来て、合掌する子どもたちがありました。相手のことを知り、大切に「思いやりの心」を感じた瞬間でした。(むさしYMCA 相馬美幸)

【基本聖句】あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい(ペトロの手紙14章10節)

熊本YMCAの使命 共に生きる社会 ウェルネス活動 地球環境の保全 ボランティア活動 生涯学習の推進 平和な世界

ホームページ www.kumamoto-ymca.or.jp
メールマガジン登録 www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi

